

水から、ドラマチックに。

# 2023年3月期第1四半期 決算説明資料

2022年8月2日

SANEI 株式会社

証券コード:6230

(東京証券取引所 スタンダード市場)

# 1 2023年3月期 第1四半期 トピックス

売上高	<b>6,423</b> 百万円	<b>15.0% 増収</b>
売上総利益	<b>1,782</b> 百万円	<b>2.1% 減益</b>
営業利益	<b>97</b> 百万円	<b>72.4% 減益</b>

## 経済・業界の概況

- ◆新設住宅着工戸数は、2022年5月に15ヶ月ぶりに前年を下回るものの、回復基調は続いている。
- ◆急激な円安進行の影響もあり、国内の材料価格（相場）は更に上昇した。
- ◆あらゆるものが値上がり、物価上昇が続く。

## 決算の要点

- ◆売上高は新規連結会社による増加に加え、既存の販売ルートもそれぞれ増収となった。
- ◆材料・仕入価格の高騰により売上原価が大幅に増加。販売価格の改定を推進するも、浸透が遅れ、売上総利益は減益となった。
- ◆販売管理費は新規連結会社による増加に加え、2022年6月よりテレビCMを放映開始したことにより増加した。

## 2 損益の概要

新規連結会社と既存ルートの上上拡大により増収となったが、材料価格の高騰、価格改定の浸透遅れ、広告宣伝費等による販売管理費の増加により大幅な減益となった。

(単位：百万円)

	2022年3月期		2023年3月期			
	1Q累計	構成比	1Q累計	構成比	増減	前年比
売上高	5,587	100.0%	6,423	100.0%	+836	+15.0%
売上総利益	1,821	32.6%	1,782	27.8%	△38	△2.1%
営業利益	354	6.3%	97	1.5%	△256	△72.4%
経常利益	333	6.0%	96	1.5%	△237	△71.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	211	3.8%	35	0.6%	△175	△83.1%
1株当たり四半期純利益	92円22銭		15円63銭			
期中平均株式数	2,289,000株		2,288,982株			

## 3

## 四半期業績の推移

(単位：百万円)

前期 2022年3月期	年間	前期1Q	前期2Q	前期3Q	前期4Q
売上高	22,999	5,587	5,471	5,990	5,950
(年間売上構成比)	100%	24.3%	23.8%	26.0%	25.9%
累計 (進捗率)	22,999 100%	5,587 24.3%	11,058 48.1%	17,049 74.1%	22,999 100.0%
営業利益	1,477	354	338	442	342
経常利益	1,492	333	371	447	340
累計 (進捗率)	1,492 100%	333 22.3%	705 47.2%	1,152 77.2%	1,492 100.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	999	211	253	297	237
累計 (進捗率)	999 100%	211 21.1%	464 46.4%	761 76.2%	999 100.0%

当期 2023年3月期	年間 (業績予想)	当期1Q
売上高	26,000	6,423
(年間売上構成比)	100%	24.7%
累計 (進捗率)	26,000 100%	6,423 24.7%
営業利益	1,670	97
経常利益	1,640	96
累計 (進捗率)	1,640 100%	96 5.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,050	35
累計 (進捗率)	1,050 100%	35 3.4%

■ 売上高の年間進捗率は、24.7%となり前年を上回った

■ 経常利益の年間進捗率は5.9%、親会社株主に帰属する四半期純利益の年間進捗率は3.4%となり、前年を大幅に下回った

■ 当期の第2四半期（累計）業績予想

- ・売上高 12,630百万円（年間進捗率48.6%）
- ・経常利益 540百万円（年間進捗率32.9%）
- ・四半期純利益 330百万円（年間進捗率31.4%）

※2022年5月9日公表の業績予想から修正はありません。

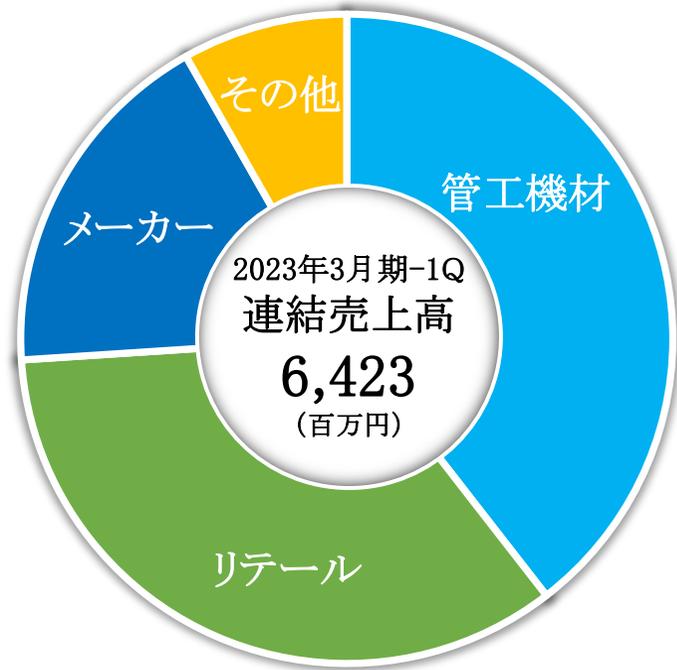
## 4

## 販売ルート別の業績

管工機材：現場物件を中心に市場の回復、デザイン水栓シリーズの拡販、展示会など販促活動による売上増加。

リテール：EC市場は引き続き売上が拡大。ウルトラファインバブル製品を中心に高機能製品の販売が好調。

メーカー：賃貸住宅市場の受注が回復。新規標準採用製品も売上増加に貢献。



		2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期-1Q
■ 管工機材 ルート	前年比	↑	↑	↑
	構成比	↑	↓	↓
■ リテール ルート	前年比	↑	↑	↑
	構成比	↑	→	↓
■ メーカー ルート	前年比	↓	↑	↑
	構成比	↓	↑	↓

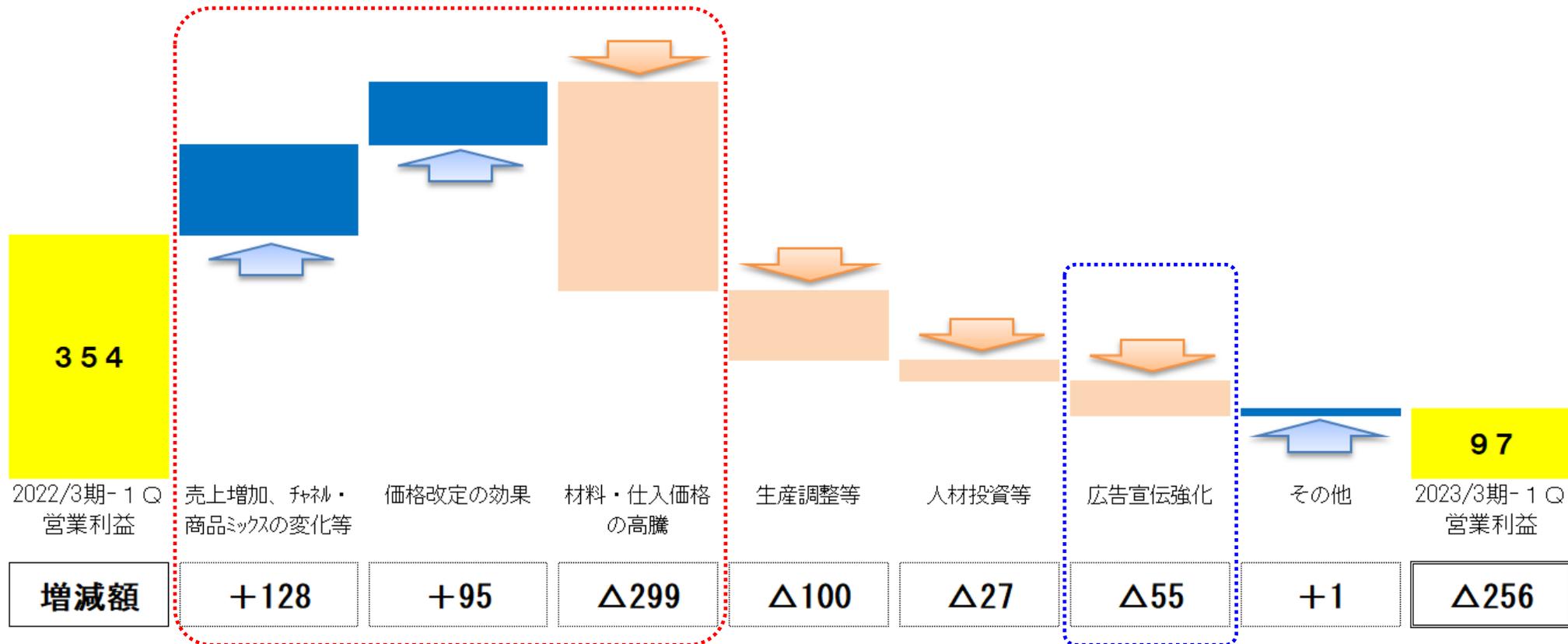
※注) 当期から連結対象会社が増えたため、「その他」の売上が増加しました。そのため、各販売ルートの売上構成比は下がっていますが、売上高は前年同期を上回っています。

## 5

## 営業利益の増減要因

営業利益の増減要因(前年差異△256百万円の内訳)

(単位：百万円)



販売価格改定の浸透遅れもあり、材料・仕入  
価格の高騰による減益を吸収しきれなかった

## 損益の概要(まとめ)

(単位：百万円)

	2022年3月期	
	1Q累計	構成比
売上高	5,587	100.0%
売上総利益	1,821	32.6%
営業利益	354	6.3%
経常利益	333	6.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	211	3.8%

- ・住宅市場の回復による受注増加
- ・デザイン水栓シリーズ、高機能製品など、高付加価値製品の拡販
- ・新規連結会社による売上増加

- ・販売価格の改定を実施（※浸透の遅れ）
- ・素材価格（銅相場）の更なる高騰による材料・仕入価格の増加

- ・新規連結会社による販売管理費増加
- ・テレビCM等、広告宣伝費の増加

2023年3月期			
1Q累計	構成比	増減	前年比
6,423	100.0%	+836	+15.0%
1,782	27.8%	△38	△2.1%
97	1.5%	△256	△72.4%
96	1.5%	△237	△71.1%
35	0.6%	△175	△83.1%

## 7

## 連結BS(資産・負債・純資産)

資産・負債・純資産ともに大きな変動はなかった。現預金の減少は配当・納税の支払いが主要因。

(単位：百万円)

	2022年 3月期	2023年 3月期－1Q			
	金額	金額	増減	前年比	主要な増減
資産	22,467	22,450	△16	△0.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 棚卸資産の増加 + 3 1 3</li> <li>■ 現預金の減少 △ 1 8 4</li> <li>■ 売掛債権の減少 △ 5 5</li> </ul>
負債	10,515	10,508	△6	△0.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 買掛債務の増加 + 4 7 8</li> <li>■ 引当金の減少 △ 2 4 1</li> <li>■ 未払税金の減少 △ 2 3 3</li> </ul>
純資産	11,952	11,942	△10	△0.1%	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 配当の支払い △ 1 0 7</li> </ul>

## (参考) SANEI企業広告「水から、ドラマチックに。」

水から、ドラマチックに。



2022年6月23日(木)よりテレビCMをはじめとした当社企業広告「水から、ドラマチックに。」を展開しています。

当社は、「人類ある限り水は必要である」という現代のサステナビリティにも通じる考えを企業理念として大切にし、地球に生きる一員としての自覚を持って企業活動に取り組んできました。その想いは変わることなく、褪せることなく、一層切実な意味を帯びて今の時代に息づいています。

水の循環という壮大な流れのなかで、水と人が触れ合うところに当社の製品があり、その一瞬を心地よく素敵なものであるように水と人との出会いをデザインしたい、水の流れを素敵な時間の流れへと変えていきたい、そんな想いを「水から、ドラマチックに。」というメッセージにこめています。

### ■テレビCM 概要

放送地区：関東、関西、東海の3地区を中心に、全国にて  
放映開始

放映期間：2022年6月23日(木)～

バージョン：「水から、ドラマチックに。」15秒/30秒

### ■グラフィック広告

2022年8月より、雑誌、ODMなどで展開

### ■CMギャラリー（動画の視聴等、Webサイト）

<https://www.sanei.ltd/cm/>

# 「ALWAYS WITH JOY」

# SANEI

本資料に関するお問合せやIRミーティングのご依頼

▽ 当社ホームページ <https://www.sanei.ltd/>

▽ メール [ir-sanei@sanei.ltd](mailto:ir-sanei@sanei.ltd)

▽ お電話 06-6972-5955

担当：SANEI株式会社IR課

SANEI株式会社

<https://www.sanei.ltd/>

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。